

## 四万十市地域福祉計画

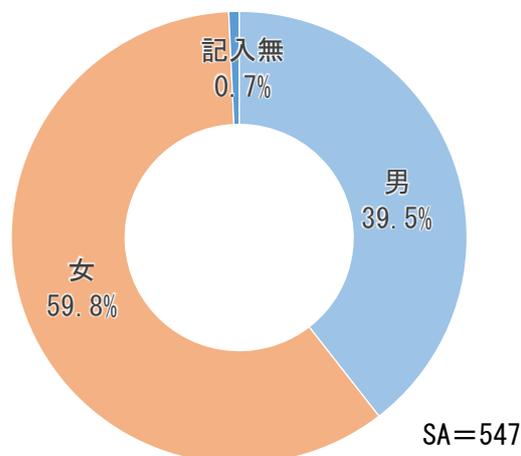
### 令和6年度市民アンケート結果報告書

調査の目的	市民の地域福祉に関する考えや実態を把握するとともに、意見を広く集約し、第4期四万十市地域福祉計画に反映していくことを目的とする。
調査期間	令和6年5月1日(水)～令和6年5月31日(金)
調査対象	18歳以上の市民1,200人(無作為抽出)
調査方法	郵送調査(郵送配布、郵送回収)
回収状況	回収数547枚(回収率45.6%)

# 1 基本項目

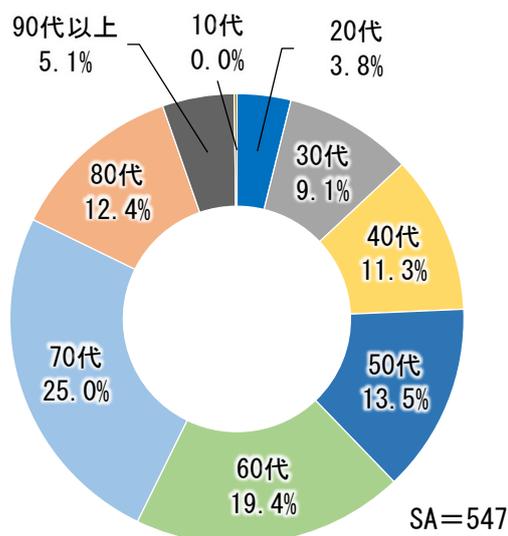
問1 あなたの戸籍上の性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1	男	216	39.5%
2	女	327	59.8%
	記入無	4	0.7%
	計	547	100%



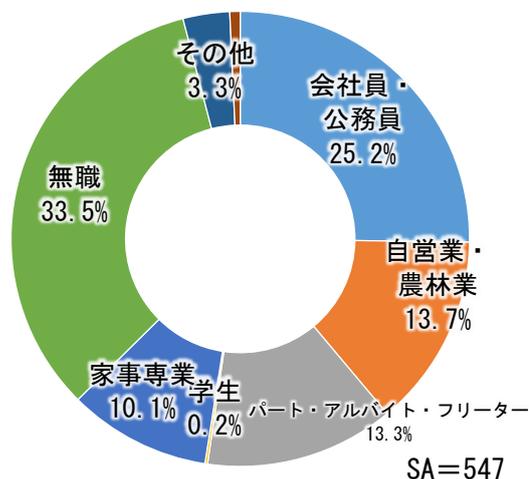
問2 あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1	10代	0	0.0%
2	20代	21	3.8%
3	30代	50	9.1%
4	40代	62	11.3%
5	50代	74	13.5%
6	60代	106	19.4%
7	70代	137	25.0%
8	80代	68	12.4%
9	90代以上	28	5.1%
	記入無	1	0.2%
	計	547	100%



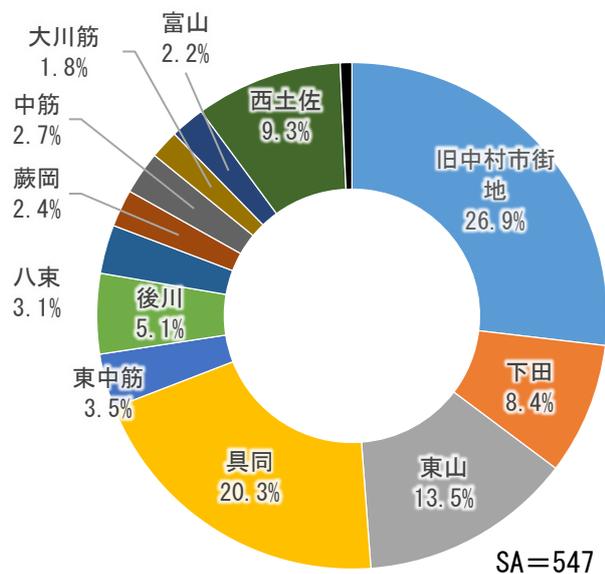
問3 あなたの主な職業を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1	会社員・公務員	138	25.2%
2	自営業・農林業	75	13.7%
3	パート・アルバイト・フリーター	73	13.3%
4	学生	1	0.2%
5	家事専業	55	10.1%
6	無職	183	33.5%
7	その他	18	3.3%
	記入無	4	0.7%
	計	547	100%



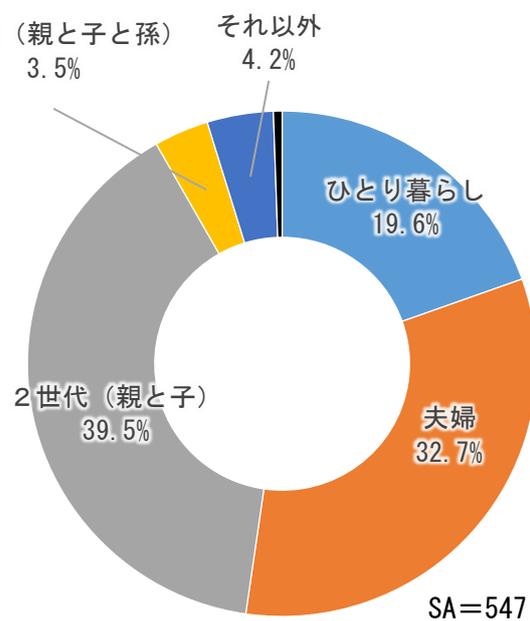
問4 あなたのお住いの地域を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1	旧中村市街地	147	26.9%
2	下田	46	8.4%
3	東山	74	13.5%
4	具同	111	20.3%
5	東中筋	19	3.5%
6	後川	28	5.1%
7	八束	17	3.1%
8	蕨岡	13	2.4%
9	中筋	15	2.7%
10	大川筋	10	1.8%
11	富山	12	2.2%
12	西土佐	51	9.3%
	記入無	4	0.7%
	計	547	100%



問5 あなたの世帯構成を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

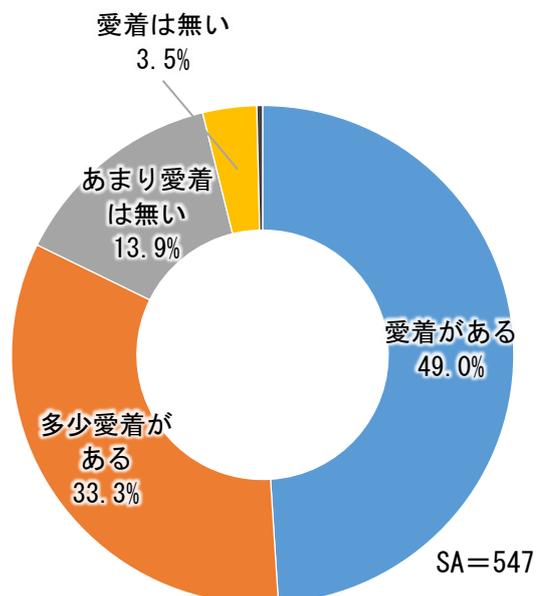
1	ひとり暮らし	107	19.6%
2	夫婦	179	32.7%
3	2世代(親と子)	216	39.5%
4	3世代(親と子と孫)	19	3.5%
5	それ以外	23	4.2%
	記入無	3	0.5%
	計	547	100%



## 2 地域のことについて

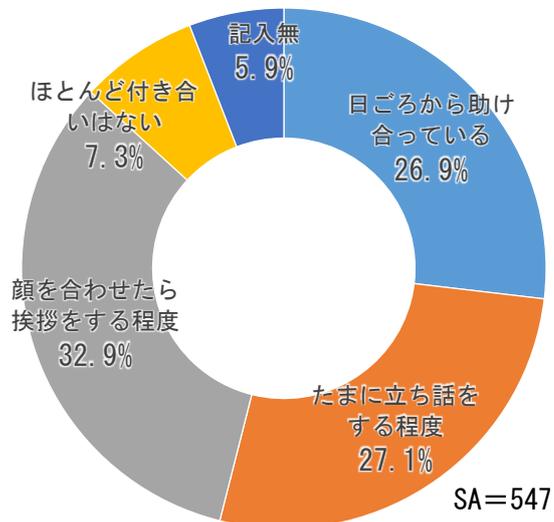
問6 自分の住んでいる地域に愛着はありますか。(あてはまるもの1つに○)

1	愛着がある	268	49.0%
2	多少愛着がある	182	33.3%
3	あまり愛着は無い	76	13.9%
4	愛着は無い	19	3.5%
	記入無	2	0.4%
	計	547	100%



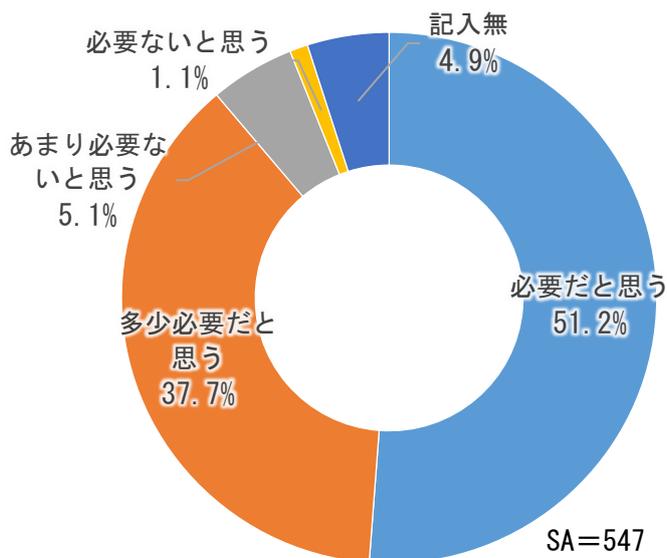
問7 ご近所との付き合いはどの程度ですか。(あてはまるもの1つに○)

1	日ごろから助け合っている	147	26.9%
2	たまに立ち話をする程度	148	27.1%
3	顔を合わせたら挨拶をする程度	180	32.9%
4	ほとんど付き合いはない	40	7.3%
	記入無	32	5.9%
	計	547	100.0%



問8 ご近所との付き合いは必要だと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1	必要だと思う	280	51.2%
2	多少必要だと思う	206	37.7%
3	あまり必要ないと思う	28	5.1%
4	必要ないと思う	6	1.1%
	記入無	27	4.9%
計		547	100%



問9 問8で「1. 必要だと思う」「2. 多少必要だと思う」と答えた方にお聞きします。どのような時に、近所のお付き合いが必要だと感じますか。(あてはまるものすべてに○)

1	災害が発生したとき	457	457
2	家を留守にするとき	204	204
3	地域の活動に参加したいとき	199	199
4	家族の介護・介助を一時的にできなくなったとき	64	64
5	その他	40	40
6	子どもの預かりが必要になったとき	20	20
	記入無	30	30

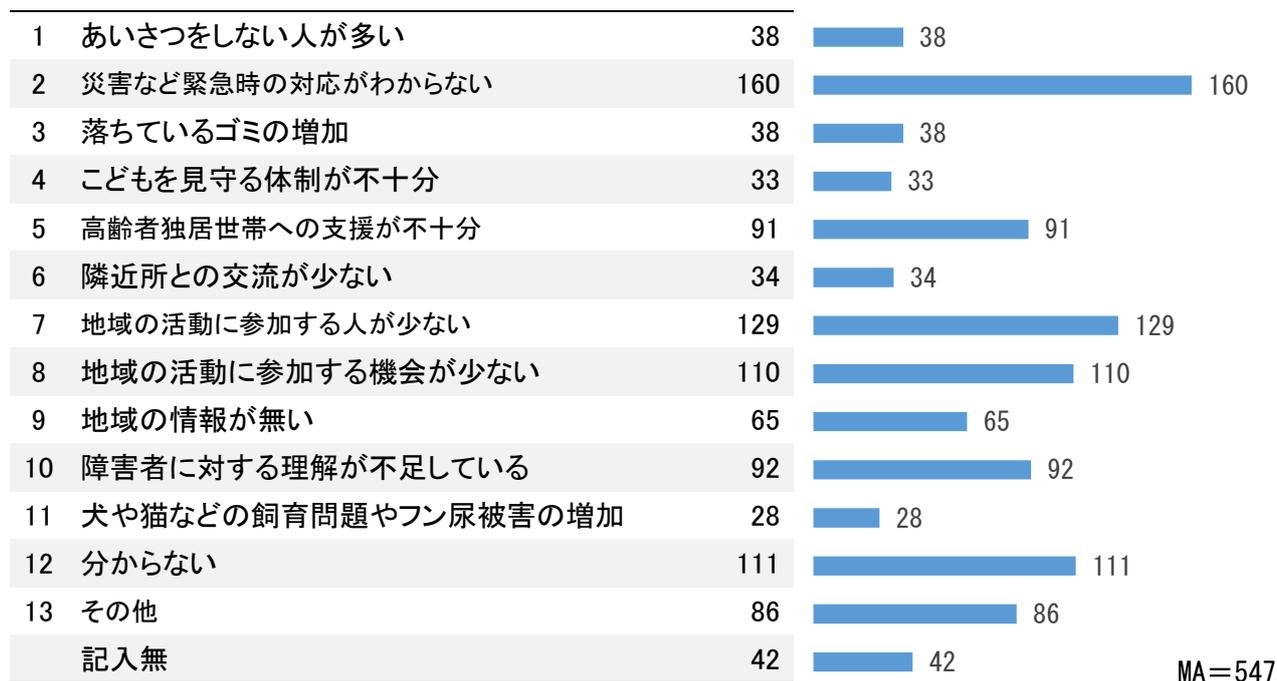
MA=486

問10 問8で「3. あまり必要ないと思う」「4. 必要だと思わない」と答えた方にお聞きします。近所づきあいが必要ないと思われるのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

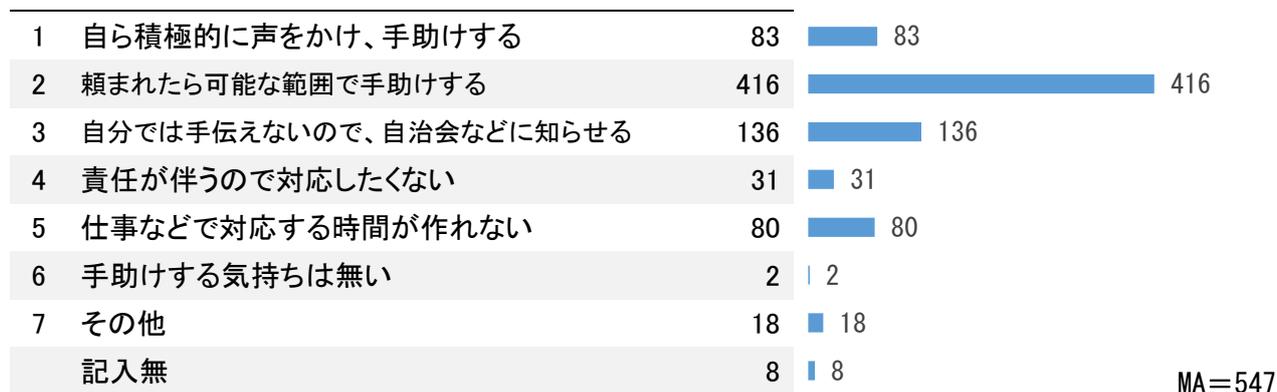
1	記入無	28	28
2	特に困っていることはないから	22	22
3	近所づきあいが煩わしいから	16	16
4	人とかかわりが苦手だから	10	10
5	ほとんど家にいることが無いから	5	5
6	近所づきあいにかかる時間が惜しいから	4	4
7	その他	1	1

MA=34

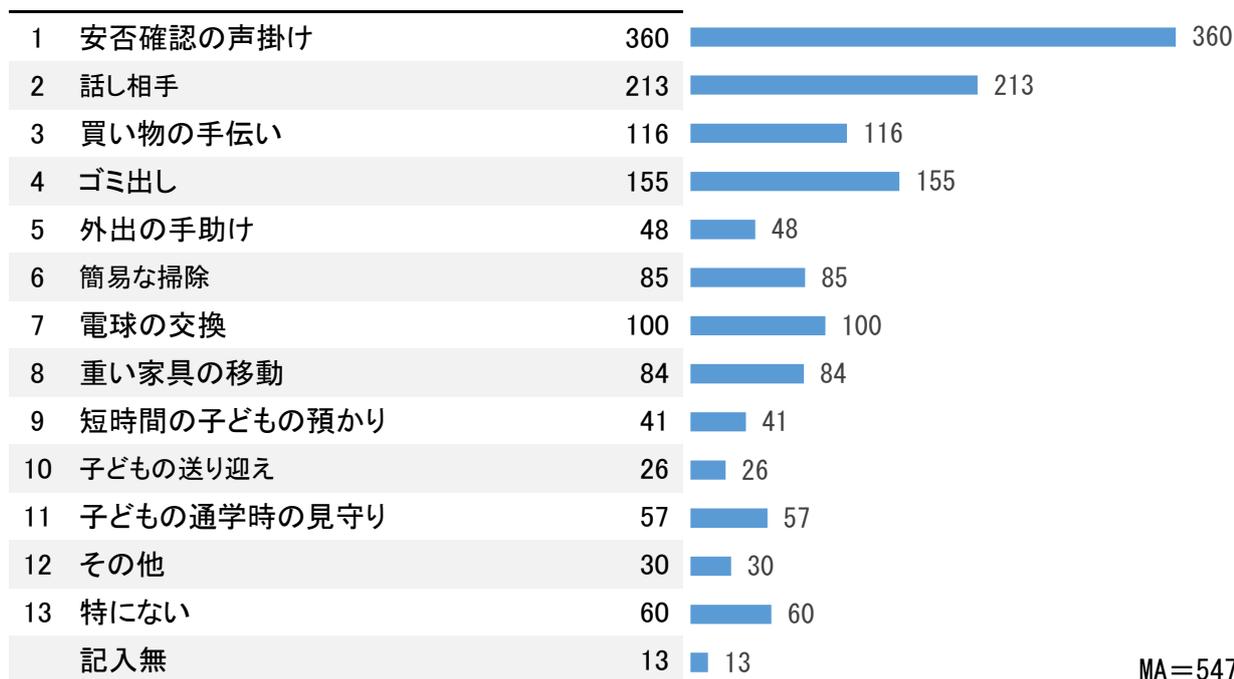
問 11 あなたの住んでいる地域では、どのようなことが問題だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



問 12 地域の中で、身の回りのこと、家事や外出などで困っている人がいる場合、あなたはどのような対応をとると思いますか。(あてはまるものすべてに○)



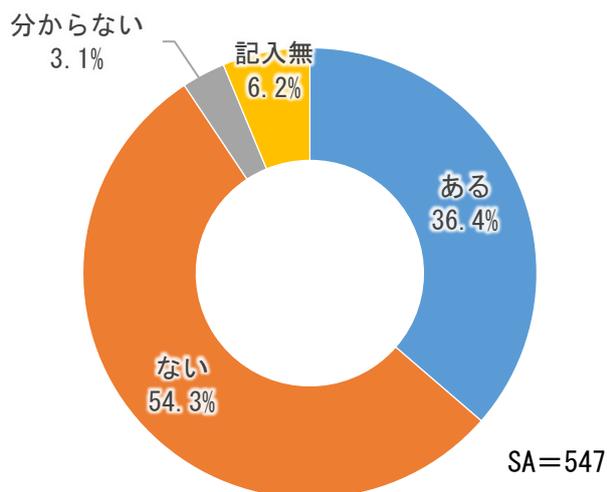
問 13 隣近所で、高齢者や障害者の介護・介助、子育てなど困っている世帯があった場合、あなたはそのようなことであれば手助けできると思いますか。(あてはまるものすべてに○)



### 3 地域活動・ボランティア活動について

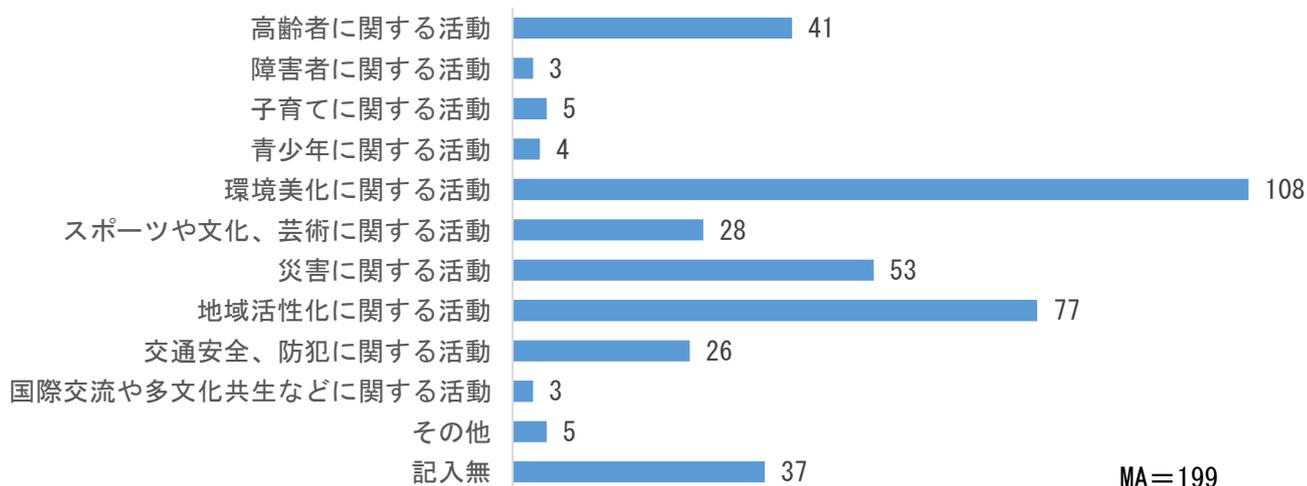
問 14 あなたはここ1年間の間に地域活動やボランティア活動、各種支援活動等に取り組んだことはありますか。(あてはまるもの1つに○)

1	ある	199	36.4%
2	ない	297	54.3%
3	分からない	17	3.1%
	記入無	34	6.2%
	計	547	100%



問 15 問 14 で、「1. ある」と答えた方にお尋ねします。それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	高齢者に関する活動(高齢者の見守り、健康福祉委員会等サロン活動への協力、高齢者施設への訪問)	41
2	障害者に関する活動(手話や外出支援、施設訪問など)	3
3	子育てに関する活動(一時預かり、子育て相談や子育てサークルの支援など)	5
4	青少年に関する活動(悩み事相談や交流、子ども会活動の支援など)	4
5	環境美化に関する活動(自然愛護や美化運動、リサイクル活動など)	108
6	スポーツや文化、芸術に関する活動	28
7	災害に関する活動(避難訓練への参加・協力、災害復興支援、災害ボランティアなど)	53
8	地域活性化に関する活動(地域イベントの支援、自治会活動への協力)	77
9	交通安全、防犯に関する活動	26
10	国際交流や多文化共生などに関する活動	3
11	その他	5
	記入無	37



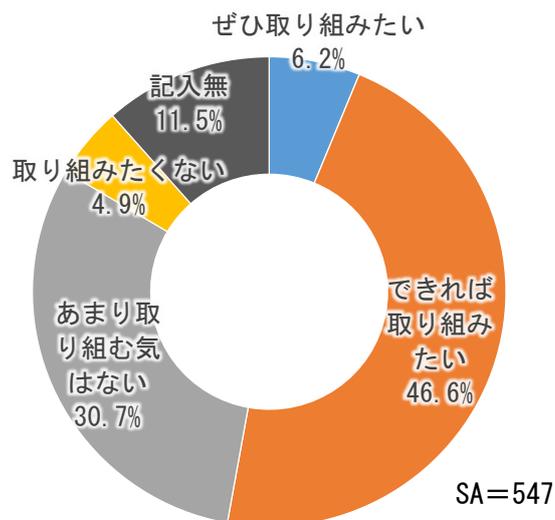
問 16 問 13 で「2. ない」と答えた方におたずねします。活動に取り組めなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	自治会などの組織に入っていない	77	77
2	活動に参加する時間がない	109	109
3	参加方法がわからない	50	50
4	特に興味がない	51	51
5	家族の理解が得られない	5	5 0.9%
6	一緒に活動する仲間がいない	43	43
7	体調が優れない	74	74
8	その他	32	32
	記入無	38	38

MA=297

問 17 あなたは今後、地域活動やボランティア活動にどの程度取り組んでいきたいと考えていますか。  
(あてはまるもの1つに○)

1	ぜひ取り組みたい	34	6.2%
2	できれば取り組みたい	255	46.6%
3	あまり取り組む気はない	168	30.7%
4	取り組みたくない	27	4.9%
	記入無	63	11.5%
	計	547	100%



問 18 福祉に関するボランティア活動や助け合い活動を活性化するためにどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

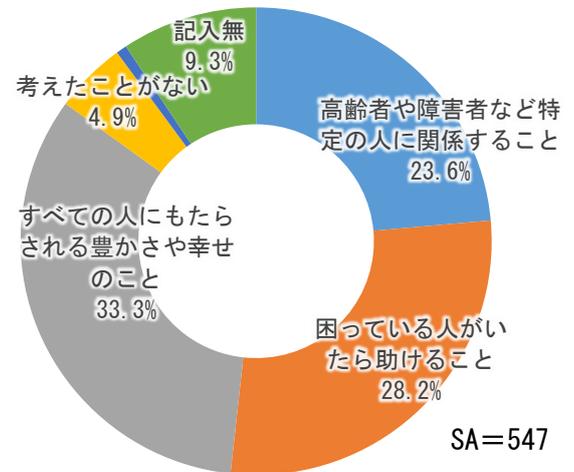
1	活動の情報提供の充実、PR強化	227	227
2	活動に関する相談窓口の充実	115	115
3	子どもの頃からの福祉教育の強化	101	101
4	人材を育成するための講座の開催	62	62
5	個々の能力を活用できる人材バンクの活用	90	90
6	活動に必要な場所の確保	66	66
7	運営に必要なお金の補助	114	114
8	活動団体間の連絡や調整機能の強化	40	40
9	ボランティア休暇制度の整備	44	44
10	特にない	67	67
11	その他	13	13
	記入無	89	89

MA=547

## 4 福祉サービスについて

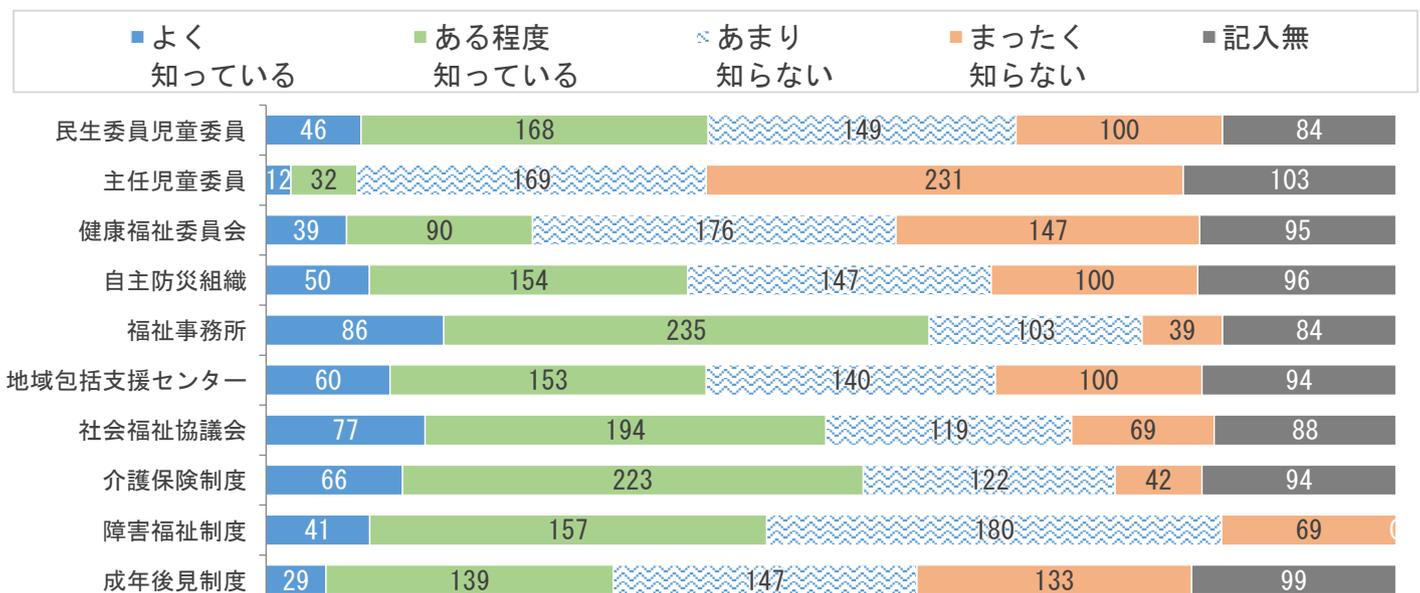
問 19 あなたは、「福祉」という言葉にどのようなイメージをお持ちですか。(あてはまるもの1つに○)

1	高齢者や障害者など特定の人に関係すること	129	23.6%
2	困っている人がいたら助けること	154	28.2%
3	すべての人にもたらされる豊かさや幸せのこと	182	33.3%
4	考えたことがない	27	4.9%
5	その他	4	0.7%
	記入無	51	9.3%
	計	547	100%



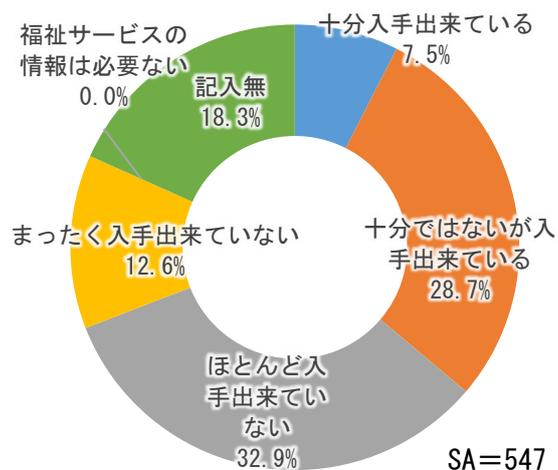
問 20 あなたは次の福祉に関する団体や資源、制度を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	記入無
1 民生委員児童委員	46 6.0%	168 22.0%	149 19.5%	100 13.1%	84 11.0%
2 主任児童委員	12 1.6%	32 4.2%	169 22.1%	231 30.2%	103 13.5%
3 健康福祉委員会	39 5.1%	90 11.8%	176 23.0%	147 19.2%	95 12.4%
4 自主防災組織	50 6.5%	154 20.2%	147 19.2%	100 13.1%	96 12.6%
5 福祉事務所	86 11.3%	235 30.8%	103 13.5%	39 5.1%	84 11.0%
6 地域包括支援センター	60 7.9%	153 20.0%	140 18.3%	100 13.1%	94 12.3%
7 社会福祉協議会	77 10.1%	194 25.4%	119 15.6%	69 9.0%	88 11.5%
8 介護保険制度	66 8.6%	223 29.2%	122 16.0%	42 5.5%	94 12.3%
9 障害福祉制度	41 5.4%	157 20.5%	180 23.6%	69 9.0%	0 0.0%
10 成年後見制度	29 3.8%	139 18.2%	147 19.2%	133 17.4%	99 13.0%



問 21 あなたは現在、福祉サービスの情報をどの程度入手出来ていると感じますか。(あてはまるもの1つに○)

1	十分入手出来ている	41	7.5%
2	十分ではないが入手出来ている	157	28.7%
3	ほとんど入手出来ていない	180	32.9%
4	まったく入手出来ていない	69	12.6%
5	福祉サービスの情報は必要ない	0	0.0%
	記入無	100	18.3%
	計	547	100%



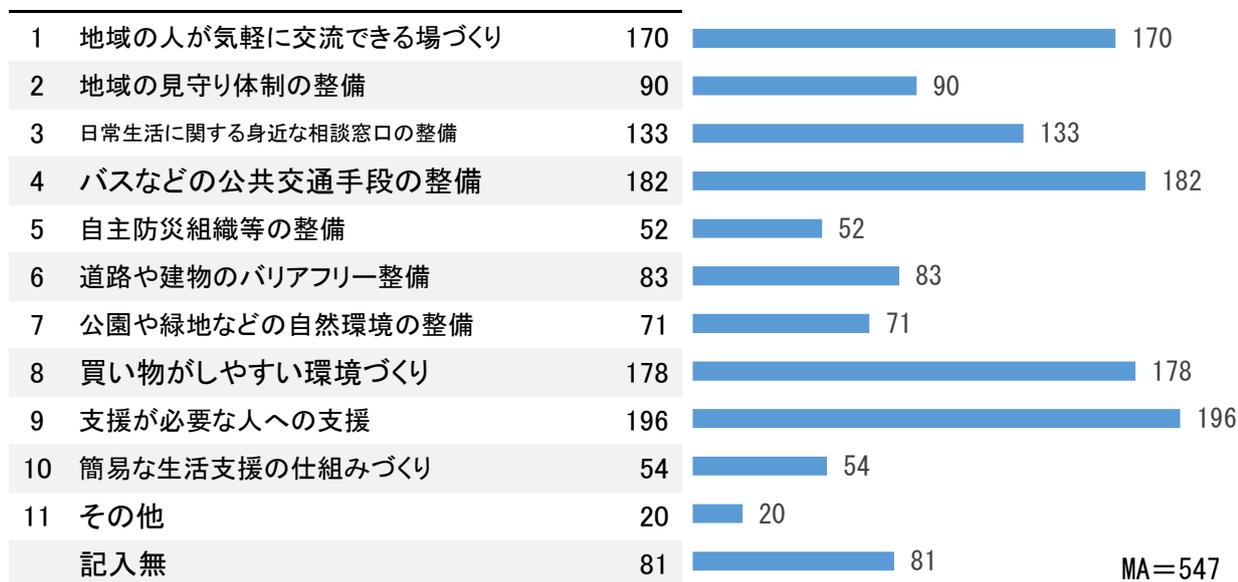
問 22 問 21 で「1. 十分入手出来ている」「2. 十分ではないが入手出来ている」と答えた方にお伺いします。あなたは福祉サービスの情報を主にどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

1	市役所の窓口	45	45
2	市の広報誌	93	93
3	民生委員・児童委員	20	20
4	社会福祉協議会	45	45
5	利用している福祉施設や事業所のスタッフ	41	41
6	家族・親戚	34	34
7	友人・知人	33	33
8	自治会の関係者(回覧板含む)	40	40
9	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	39	39
10	インターネット	20	20
11	その他	11	11
	記入無	44	44

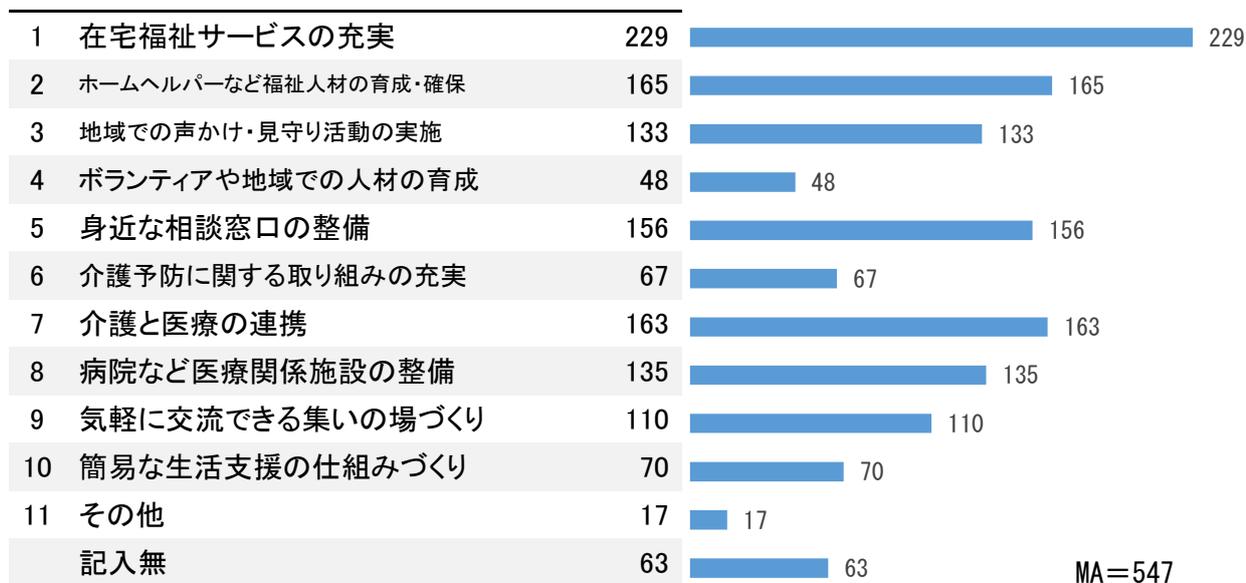
MA=198

## 5 今後の四万十市について

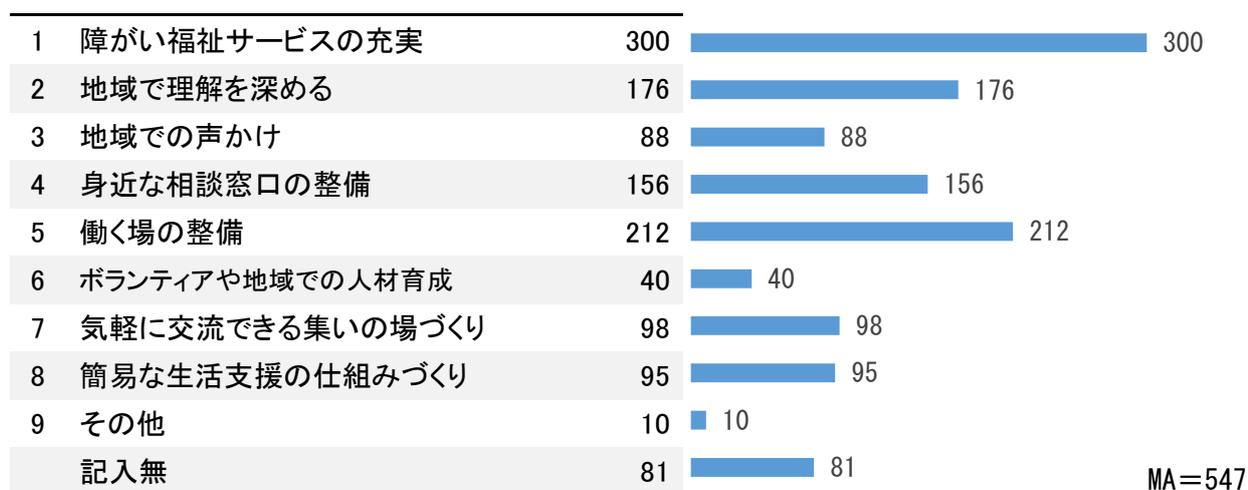
問 23 地域での暮らしをより豊かにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるもの3つまでに○)



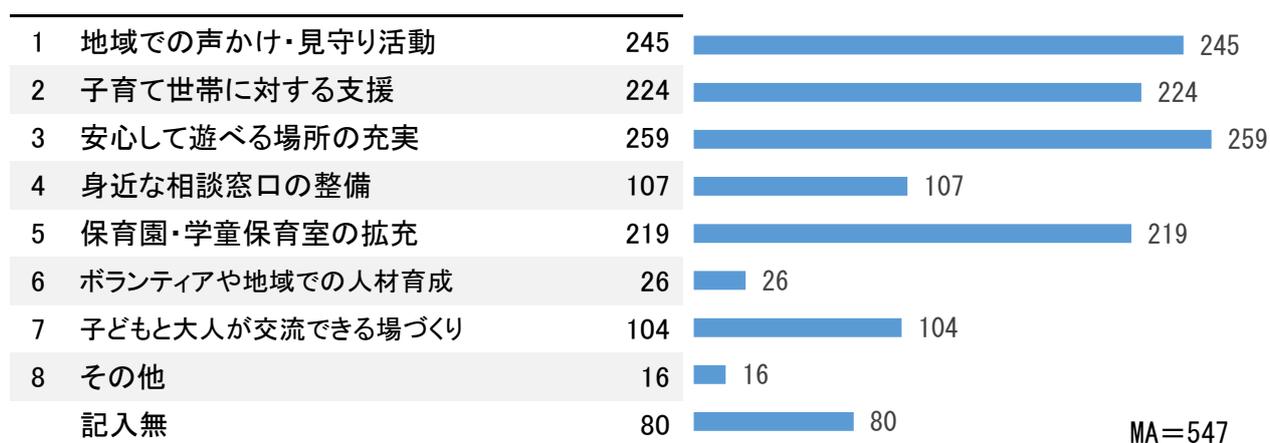
問 24 高齢者にとって住みやすい地域を作るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)



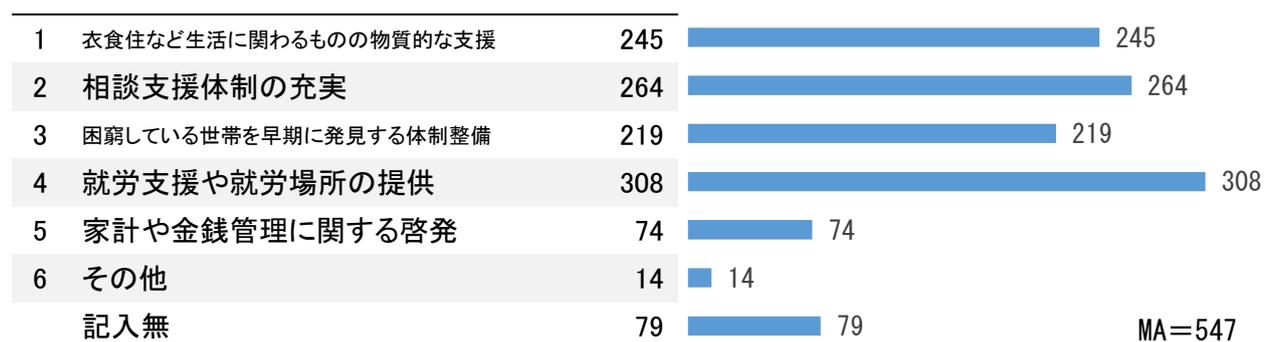
問 25 障害のある人にとって住みやすい地域をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)



問 26 子どもが健やかに育つためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

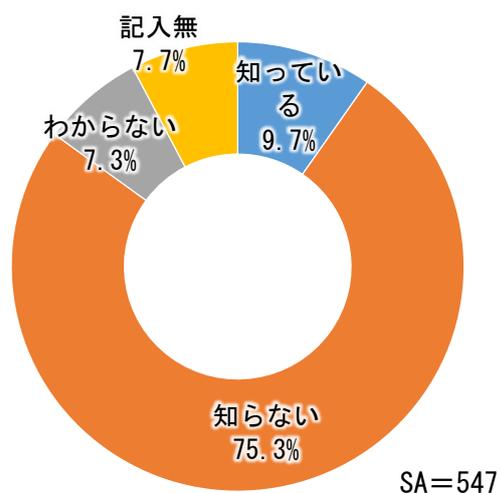


問 27 生活に困窮している人が自立した生活を送るためにどのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)



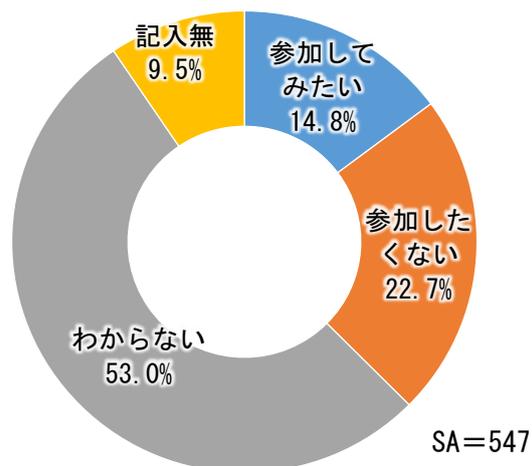
問 28 四万十市を 12 圏域に分けた座談会を四万十市社会福祉協議会で開催していることを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1	知っている	53	9.7%
2	知らない	412	75.3%
3	わからない	40	7.3%
	記入無	42	7.7%
	計	547	100%



問 29 座談会では、各地域の課題解決に向けた話し合いを行っています。参加してみたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1	参加してみたい	81	14.8%
2	参加したくない	124	22.7%
3	わからない	290	53.0%
	記入無	52	9.5%
	計	547	100%



## 6 自由回答

問 30 住みやすい地域づくりに向けて、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・ 年々高齢者が増加して西土佐は特に車なしでは移動手段が厳しく運転に対する不安。西土佐に対する支援や取組みが減り中村のみ拡充している現状に不満を抱いている話が多い。人口が減り生きていかななくてはいけないので支援政策等の検討をお願いしたい。
- ・ まもなく80代です。今の所は健康かなと自分で行動しています。福祉(市役所の内にある課位しか理解していません。)
- ・ 自分自身の体調が優れず毎日生活をしていくのがやっとです。
- ・ 障害を持つ方との関わりが多い関係から障害があっても親に頼らず生活出来るような地域作りが出来たら良いと思う。困った時にすぐ相談出来る場所そこから専門機関に繋がられる体制がそれも役所等に出向手続きをしていう難しいステップを踏むことなく柔軟な体制が正しい専門的な知識を持った方による仕組みが作れたらと思う。若い人が流出する中軽度の障害を持つ方を見守る体制を作る事で地域の活性化にも繋がると思う。
- ・ 家の近くに公園があり沢山の子ども達が遊んでいて歩道が無く交通量も多いので公園や通学路のより安全な歩道の確保が必要だと思う。
- ・ 今更って思う事が大半!! 取組みの遅さに言葉が無い。20年前に出来ていれば、今の現状にならなかったのでは…。疲弊している。
- ・ 道路の白線や横断歩道、一時停止線が消えてる箇所が多いので危ないと思う。子供・高齢者を守る為にも白線は大切と思う。国道・県道の大事な線も夜は見えにくく悩む所が多い。山間部でも白線がはっきりしているとバックしやすい。(夜間が特に)
- ・ しまんとぴあが新しく出来て今後多くの演奏会などが開催されたら良いと思います。
- ・ 過疎地区の西土佐の路線バスの運行時間を JR 予土線との連絡がスムーズであれば車の無い高齢者とかも生活しやすくなると思う。過疎地域はお互いの業者が協力し合うと良いと思う。
- ・ 20年先の集落は廃屋と雑草で荒れる所となっているのではないか。これを正すには政治の力しかありません。一人でも子供の生まれる市政をお願いします。小生90才ですが死にきれない思いです。
- ・ 車を運転していて、横断歩道が無い所でも渡っている人がいるのでとても怖い。
- ・ 常日頃より積極的な挨拶を交わす事を市全体でPRをしていく。例えば広報に1年間通して「あいさつ」を呼びかける短い文での言葉を掲載していくなどを行ってみる。四万十市と言えば「あいさつの街」等々。
- ・ 小さな子供がいますが、子育て支援はとても充実しており、子育てしやすい街だと思います。近くに親戚がいないので、もう少し地域の関わりが持てたらと感じます。
- ・ アンケート回答機会を頂きありがとうございます。一人一人幸せな人生設計を真剣に取り組んで頂き心から感謝しております。今後に期待しております。
- ・ 車を乗れなくなっからの買い物が心配。
- ・ 第25条国民の生存権「国の社会保障」の義務から始まります。子供時代から福祉教育をする事が大切だと思います。道徳特に礼儀を教える事です。今の時代は、個人主義に走り他人を大切にす博愛心が少ない様です。広報を利用して啓発に福祉課の皆様頑張って下さる様お願い申し上げます。
- ・ 子供の交通ルールの指導、特に自転車でのルール。

- ・ 高校卒業した後の進学先が無く18～29歳までの人口が少ない。最も活力のある世代の人間が足りていない事は大きな問題と思う。若者を増やす事をしなければ緩やかに滅びゆくのではないのでしょうか。介護者も高齢者という実情です。大学・専門学校の誘致はとても重要であると感じています。下田地区に未来を作れなかったのは致命的でした。どうか諦めないで頂きたいと切に思います。
- ・ どこへ相談したら良いのかが分からない。市役所のラインと友達だがこんな事やってるのねーと思う事がある。もっとわかりやすく情報を発信してもらいたい。
- ・ 親子(小さい子供)のみ・高齢者世帯が大変多い。幼少時老人と暮らす事により老後の生活の見本があったが今の子供達は見る経験が無くなっている。「お年寄りを大切にしましょう」と言っても何故大切にするのか分からないと思います。
- ・ 中村小学校の学童をもう少し利用しやすくして欲しい。小学3年以上でも利用出来る様にして欲しい。高学年に兄弟姉妹が離れていたり長期休日の時期だけ利用が可能になると嬉しいです。
- ・ 家族で回りに迷惑かけない様にしていくので精一杯です。
- ・ 桜町には高齢者が多いのに集会所もない。旧文化センターの跡地に集まれる所が欲しい。
- ・ 仕事の都合で住んでいますが、穏やかで住みやすい街だと思います。歴史あるものと現代のものが上手に融合した街づくりも期待しています。
- ・ 土佐清水市・黒潮町に負けないイベント(映画・コンサート・美術)などの関連。街中開発(都会化)・地域(街外)は自然型アクティビティーの充実。山側も海側も四万十市、街だけでは無い。
- ・ 今いる人もこれから居住する人も四万十市が良いと感じられる市になって欲しい。
- ・ 40代以下の若い方の減少と無関心はこれからも強くなっていくと思うので心配です。地区活動さえ難しくなりそうです。
- ・ 私は県外から来たので地元(四万十市)の知り合いも少なく地域との繋がりがとても薄いです。性格的に自ら交流していくタイプでは無いけどあまり固くならずに参加出来る場が増えると嬉しいです。
- ・ 今や市政は先が暗い。人は食が基本。旧市内は店が無く高齢者は近所に店が無いから物が買えない。今でも大変で困っています。この先お先真っ暗です。旧市内では人が住めない。
- ・ 買い物に便利な交通網
- ・ 国全体が高齢化している現状で地域の高齢化を必然的と受け止め、若者が少なくなった地域では高齢者自身支援の必要な充実はもとより出来るだけ自立出来た状態で維持出来る様にするにはどうすれば良いかを意識しながら生活する事が大切と思う。
- ・ 人口問題につきると思います。若い人の働く場所を多く作り人口減少を防ぐ事だと思います。
- ・ 自営業の為大企業の介入や入札があると生活が困窮になっていく。最終的に引越えを考慮してしまうしそうなると思う。納税している身としては優先してもらえたら凄く助かる。高知市や他県からの業者は四万十市へ何かしてくれるのでしょうか。これからの人をもっと大事にして貰いたいです。
- ・ 座談会参加してみたいです。地域の事をもっと知るきっかけになればと思います。
- ・ 役所的な堅苦しい仕組みではなく住人が気楽に集い自然と支え合う場を作れるような場作りの支援が理想。
- ・ 生まれた地域で住み続けられる事はとても恵まれた事と感じる。で一定数住みたくても住めない人がいると思う。住み続けたい人が残る事が住み続ける場所を作り、今後更に重要になると思う。地域で育った人間が残りたいと考える地域ならば過疎地域解決の未来はないと思う。人口が減ると単純に出来る事が少なくなるので…※四万十市はとても住みやすい街だと思っています。

- ・ 1.案内版のある道路の充実 2.週2回のゴミ収集有難い 3.集金7千~8千が高額で出役(年に30回)が多すぎる 4.河川の手入れをして欲しい 5.四万十市地区の交流で市内を知る
- ・ 市民の声が届く市政・老人が生き生きと活動出来る場を作って欲しい。一人でも家にこもる事の無いような市の取組みとして参加出来る体制を是非実施して欲しい。切り捨てるのではなく一人一人を大切に元気に生きていける四万十市づくりをお願いします。
- ・ 各地に大きな災害がありました。絶望の中地域全員が元の街に戻る様頑張る姿に私達の地区も心一つになれるといいなと思います。楽しく集える時間があればと思います。
- ・ 高齢者が多くなり交通の便もあまり良くないと思う。歩道も狭く歩くのも危ない。車がないと出掛けられない状態になっている。近隣の市町村は商品券配布を行っているけど四万十市はしない。売地が増加し知らない人達が周りに増え今までいた人達とは会話もしない人達に地域がとか無理だと思う。福祉に携わる人材を増やすことがまずだと思う。
- ・ 各地域のリーダー(区長等)の熱意や力量が地位にもたらす影響はとても大きいと感じる。またその下の組織がしっかりしている事が大事。他力本願でなく自主的な努力無くして住みやすい地域づくりは出来ないだろう。
- ・ 私は障害者です。障害者が働ける仕事場を作って欲しいと思います。
- ・ とても住みやすい地域であるが中学校も無くなりどんどん子供も減ってきて寂しい。小学校は他地域からの受け入れも出来る様になっているのに入学する子供達がいらない。もう少し PR して欲しい。そうすれば地域も盛り上がりより良い地域になっていくのと思いました。
- ・ ボランティア・地域での見守りと言えは聞こえは良いが無償の助け合いが前提となっている。生活に困る人や子供と関わる人も余裕がある人ばかりではないと思うので有償ボランティアの制度を充実していくと良いのではないかと思います。有償と無償で講座の内容やする事に差をつけるなど差別化を計っていくのも良いのではと思う。
- ・ 私を含めて近所は高齢者ばかり時たま子供の声やグラウンドから聞こえる野球部員たちの声。日本全国少子化高齢化が益々進む中で具体的に何を望むかと聞かれても漠然としすぎて意見もまとまりません。一人一人に優しい街づくりといっても(子供の安全な遊び場・交通路・一人暮らしの方への配慮いくらでもあります)具体的には四万十の物価を安くして生活をやすくして下さい。年金生活では苦しすぎです。
- ・ 身体が少し不自由な私の反省をして地域の活動には主に主人が参加。元気な人特に下田に帰ってきた人の反対運動の声が大きい。嫁いで50年あまり個々の家の力強さ元気が今は無い。一部の者の声の下田代表になっている。下田に小中一貫校は反対と伝えます。
- ・ 四万十市でも核家族化高齢者の一人暮らしなどが増えている様に思います。子育て世帯や高齢者が一人でも安心して暮らせる様な施設などを市が提供して安心してすべての人が暮らせたらと思います。利用価格も安価だと利用しやすいかと思います。
- ・ どの地域においても毎年人口減少・少子化・高齢化になっています。色んな活動するにしても若者が殆どいない地域では無理なのです。寂しいですが、色々意見を言っても実現出来るのは限られた所だけの様な気がします。
- ・ 気安く相談出来る窓口があれば安心です。
- ・ 介護施設は沢山あるけどその母体の病院が利用者のフォローを出来ていない。かかりつけでは無い病院に入院になったり1つの病院に患者が集中してパンクする。医師の確保が必要だと思う。

- ・ 高齢者・障害を持っている方の意見を反映させたら良い。実際困っている人の意見を大切にしたら良い。
- ・ 人口減少が続く中でライフラインや公園などの維持管理のサービス水準を負担増が無いように維持していく事が大変になると思う。広い意味での生活福祉の維持を取り組んで貰いたいと思います。
- ・ 子供が育ってきた小中学校が無くなり地元に残りたくても大学・職もないのを寂しく残念に思います。大学・企業誘致に熱心に取り組んで貰いたい。その反対派の方にはより良い未来の為により具体的な代替案を出して頂いて議会で検討して貰えるといいなと思います。
- ・ 市や各団体が主導される活動・イベントですが世代や業種によって休みの曜日が違うので土日と別の曜日で2回行うなど参加しやすいようにしてほしい。
- ・ まず地域の人達が何を必要としているのかを知る事がまず大事だと思う。私は子育て世代だが四万十市はお年寄りの方が多く困っていることも何か分からない。全ての世代が住みやすくなる為にはこのアンケートの結果を広報に載せて欲しい。
- ・ 私の子供が学校に行っている頃はよく老人達がゲートボールや花壇の手入れなど良くしていたけど、今は老人の方が遊んでいる人を見ないのは何故かな～年がいても仕事をしないと生活出来ないのかな～家を見る跡取りがないのかな～
- ・ この調査票を依頼したそれに携わる皆様が一生懸命に取り組んで頂ければ地域福祉は向上します。協議会のやる気次第です。アンケートに課題・方法・思いつく事など充分に表示されていますので。一人一人生きていく事はすごい事だと向上前進する為の精神的支柱を打ち立てる様に応援したら良いと思います。
- ・ 私は聴覚障害者です。働きやすいエリアも考えてほしいです。四万十市は新しい店が少ない様に感じています、スターバックス・映画館・ショッピングモールなど
- ・ 社会福祉環境が良くなる様に日々活動している方々有難うございます。元気な時はあまり気にしない福祉ですが困った時に頼りになる大切な制度だと考えています。課題や困り事は種々様々と思いますが困った時に相談出来る場として間口を広げておいて頂けるととても安心して暮らすことが出来ると思います。
- ・ 高齢者が増えて出来ない事も増えます。山・畑が荒れ放題となり手伝って貰って少しでも住みやすい地域であればと考えます。何か良い方法はありませんか。矢張り四万十市は田舎ですが大好きです。
- ・ 他の市町村と比べた訳では無いが四万十市は歩いてすぐの所に公園が複数あり、子供に良い所だと思う。
- ・ 私も高齢者なので皆さんに助けて貰いたい。誰か話の出来る話し相手がいると助かる。何とか自分で一生健康で生きて行きたい。
- ・ 転入者や20～30代の一人暮らし世帯は地域の自治会などの組織に関する情報を得ることが少なく会費の値下げなどがあれば加入する人が増えるのではないかな。活動内容・会費がどのように使われているのか明示する事も必要ではないかな。
- ・ 旧文化センターを生かした地域づくり、出来れば建て替え(予算の問題あり)図書館機能等を移動し中高生が利用しやすい居場所(勉強出来る)を造る。現図書館へは社協の機能や基幹相談所等を置く。今箱物は流行らないかもしれませんがしまんとびあを見ても分かる様に人の流れが大きく変わります。又人材育成にとっても重要な事であると思います。他若い人が住みやすい事が大切です。

- ・ 県外から移住してくる若い世代への支援が不足している。自然や食べ物など地域として魅力があるのに上手く活用・プロデュースが出来ていない。都市部への交通手段が自動車しかなくバス交通や道路網の整備・拡充が必要だと感じる。
- ・ 少子高齢社会にあって若者には安心して結婚・子育てが出来る経済的ゆとり・高齢者には自立した生活が困難になった場合には、経済的にも誰でも入れる施設の充実が求められていると思います。
- ・ 街バス利用の充実。移動スーパーを多くして欲しいです。
- ・ ボランティアを頼るのではなく、そういう仕事をしている人の給料を上げる。何でも安くしようとかでなく代金を払いきちんと仕事をしてくれる人をもっと育てるべき。
- ・ 我が国の政治体制の見直し。給料や年金の増額(格差がありすぎる)恒久平和。豊かな国作り。
- ・ 子供の支援。
- ・ 利用出来るサービスやコミュニティーを分かりやすくする。情報をもっと公開して周知してもらおう。
- ・ 自分の出来る課題なら参加してみたい。
- ・ このアンケート内容中身が全く分からない所が色々ある。
- ・ ゴミ収集の置き場を整備して欲しい。(鉄柵の入れ物がある場所とない場所がある)
- ・ もう少し道路を整備して欲しい。
- ・ お年寄りの方が車に乗らなくても病院や買い物に行ける環境を作って欲しい。(心配の為)大部良くなりましたが西土佐中村間が GW 間は利用出来ません。全区間がバックしたりせずに通れる道幅になって欲しいです。又子供が子育て世帯ですが大変帰宅時間が遅く子育てしにくい環境です。次の孫達の世帯が安心して健やかに成長していけるよう望みます。
- ・ 空き家などを生活困窮者に安く貸していけば良いと思います。なぜ県外移住者の方だけなのか分からない。地元の若いシングルマザー世帯等を助けてほしい。その方が未来においても地元はうらやましいです。地元を愛する人が住みたいと思える様な街づくりをしてほしいと思った。
- ・ 高齢になり色々な物事が考えにくい。
- ・ とにかく人と関わり会いたくないという感じの人が多。どうしてこんな社会になったか悲しいですね。人を知る事からやらないと。どうやって関わりを持つか年を取ると余計にお互い難しいですね！助けてっていう感じ！
- ・ 最近地震や水害が全国各地で起きいつ当地も災害が起こるか分からない。自主防災や集団での訓練の場を多くし高齢者も少しでも困らない社会を希望します。その為には地域・隣近所の交流が大切だと思います。
- ・ 隣の黒潮町・宿毛市・三原村の方が子育て・福祉全てに充実していると思います。四万十市は手軽に生活保護を受けれて必要な人が受けれていない。仕事も無い、子育て・福祉の充実も無いこの僻地で若者が住むのは可哀そうな気がします。大学誘致失敗にしるお金を使うべく所を間違っている四万十市だと思う。
- ・ 働いて家計の助ける必要がある今の私にはボランティアの時間を作り出すのは非常にしんどいし気軽に声掛けだけでもと家庭に足を踏み入れたならば軽く見過ごす事は出来ないのもしんどい。情報収集ならば高齢者以外の殆どの人が所持していると思われるスマホの活用、市の HP からの分かりやすいサービス案内・提供それをプロの各部門に促せるシンプルな流れを作るのは困難でしょうか。特に若い人が困っている場合、地区の近所の方に相談するよりまず役所に向くのが常套だと思いますので役所の方には笑顔に優しい対応をお願いしたいです。

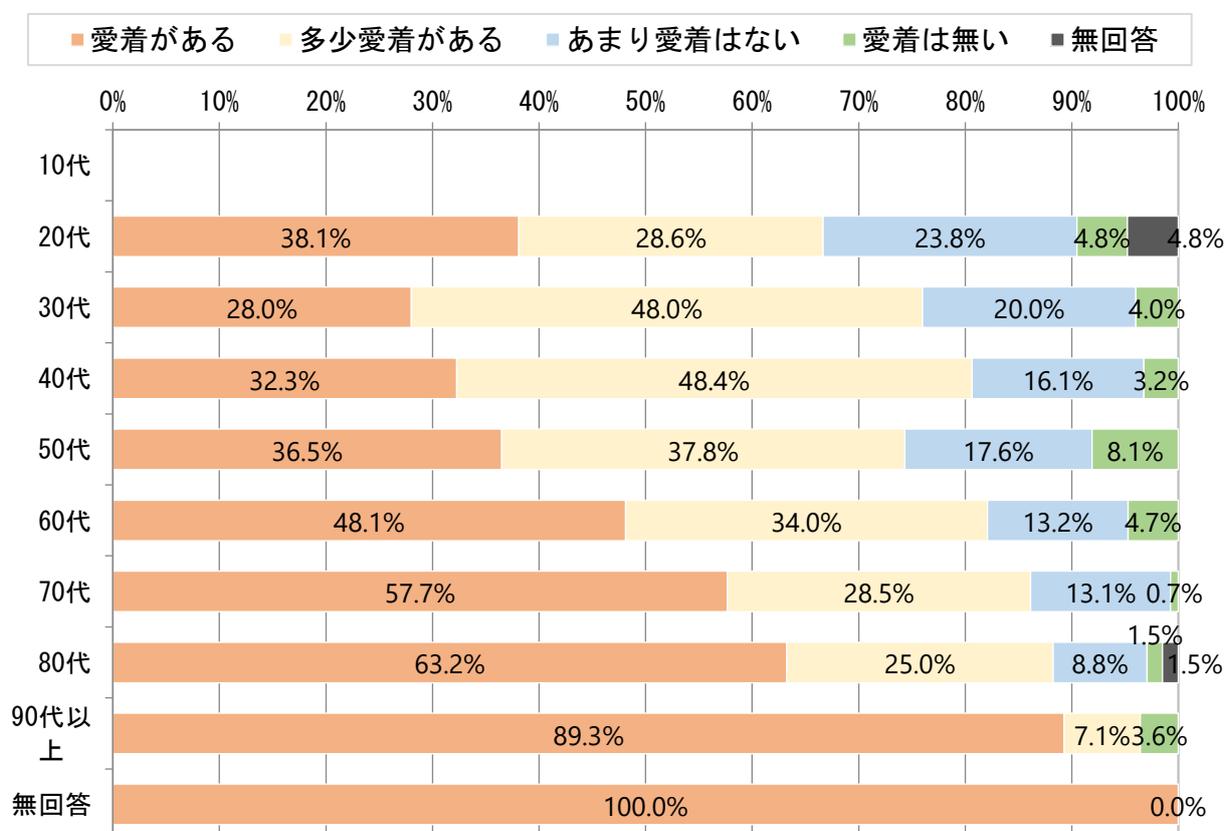
- ・ 独り言 過疎化が進み老人の集落の様な感じで医療と交通が心配。特に災害になると陸の孤島となり兼ねない。独居老人世帯が多い中誰でも気軽に集えて皆で憩う場所があればと思う。会話する事で老人同士で何らかの助け合いが出来るのではないか。
- ・ 社会福祉協議会とは何ですか。組織が分かりません。その説明が最初にして欲しかったです。
- ・ 多分仕事を見つけて移転すると思う。今仕事が無い事が悩みで高齢者やその他考えが及ばないのが実態。
- ・ 昔はお年寄りから教わる事が多かったが今は若者が少なく老人も減り繋がりが無いように思う。それは今の社会全体の事で若者が何でもスマホで調べて行動するのを見て昔人間の私はすごいこんな世の中になって良いことも悪い事も考えたり相談する事も無く決めつけていく事になったりして老人の私はただついていけない社会。それは私が老人だからと感じます。住みやすいとはいえ人口も減り学校も無くなり散歩しながらどこを見てもさみしく感じる。私は3世代といくと学ぶことが沢山あり感謝している。
- ・ 高齢の為自転車の運転が出来なくなった時通院や買い物に不便を感じるなのでその手立てを考えて欲しい。市や福祉等に提出する書類を出来るだけ簡素化して欲しい。
- ・ 「一日でも長く安心して(家・地域)で過ごせるか?」と思う。地域を広いシェアハウスとして考え時には皆と一緒に過ごし助け合ったり食事を共にしたり時には自分の趣味に没頭したり仕事に邁進出来たり。年を取り生活しずらさ支障をきたしている事項を地域より拾い上げていく事それをどう仕組みに落とししていくか「シェアハウス」の機能が私はいいと思う。
- ・ 子育て世帯に対する制度が薄すぎる。雨天時も遊び場がなく困る。
- ・ 実家が一条通りの近くですがマルナカのスーパーが無くなってとても不便です。近くにスーパーがあった時は高齢者の方も歩いて買い物が出来たのに車を出さないと買い物に行けないのが残念です。街中に駐車場が少ない事だと思います。イベントやお祭りをして駐車場が少なく困りました。ご検討お願いします。
- ・ 子育て世代にとってはとても住みにくい町だと思います。小さい子供から大きな子供まで遊べる様な場所が無くて困っている。もっと子育てに優しい街づくりをして欲しい。高齢者だけに目を向けるのではなく勿論大事だが子供の少子化に伴い子育てにもしっかりと力を入れて欲しい。
- ・ 少しづれるかもしれませんが、何故広報がこないのか分かりません。情報提供がそもそも来ないのですか。全市民が貰えるのではないのですか。
- ・ 子育て世帯に対する支援も大事ですがそれ以上に一人暮らしの高齢者の事が特に大事だと思います。
- ・ 市民が四万十市に住んで良かった又一生住みたいと思える様な地域づくりの為市長以下市職員が今以上に市民の声を聞き是非は非をはっきり示して貰いたい。市議会も今以上に気合いを入れて貰いたい。
- ・ 児童が登下校中にケガ等した際周りの大人は大丈夫かと遠巻きに見てるだけで知らない子供から分からないが声を掛けずに児童も大人に声をかけずらいといった場面を見た事があります。助け合える環境を作れる方法があれば良いのですが。(身内が声掛けて解決済)
- ・ 娘が代筆しました。私が住んでいる高知市における介護や支援の話を聞いていると四万十市の方がずっと素晴らしいと思います。近所の方のお世話には本当にいつも頭が下がる思いで有難いです。又24時間体制の訪問看護(電話に出なかったら駆けつけてくれる)も高知市では聞いた事がありません。四万十市中村の皆様に母や兄は助けられています。有難うございます。

- ・ 無償でのボランティアでは継続も拡大も難しいと思う。行政が住民の善意や好意に頼るばかりの自治体からは住民が去っていくと思う。昭和世代の住みやすさと平成・令和世代の住みやすさの意識のずれを把握しながら現時点のそして未来の住民の住みやすい地域づくりを考えて下さい。  
アンケート結果も1つのデータですがそれよりもクレバーな行政の知恵に期待します。追伸アンケートもQRで読み込んで回答するのも採り入れたらどうでしょうか。その対応を考えることにも繋がることと思います。これから地方(田舎)ほどネット環境(ソフト・ハード)の充実が必要です。
- ・ 市にお金があるという事は生活するのに不便さを感じさせない施策が出来る。それにより人口が多くなると生産や消費者が多いと潤いも出てくる。人口が多いと多様性も広がり人々の交流にも繋がる。今回のコロナで市がいかに体力が無いか良く分かった。もはや県の交付金や補助金をあてにするような市政では行く先が危ぶまれる。交通や流通に不便を感じる地域をどう活性化するか市当局の頭脳にかかっている。産業基盤の古い市である。四万十川や小京都といわれる事業をもっと活用する必要がある。岡山的美観地区のように。
- ・ 市と地区の積極的な情報交換・共有を行い、地区から地域住民へ情報をシェアしていき連携がとれる様になって貰いたい。地域住民も参加しやすい場の確保等希望します。
- ・ 市民の要望や意見を聞き市民と共に作っていく姿勢を持って欲しい。誰もが住みやすく誇りが持てる四万十市にする努力を続けることを切に望みます。
- ・ 市役所へ問い合わせすると担当者に代わり何度も相手が変わる度に同じ事を話さなくてははいけません。何度もあり民間では考えられない事です。市職員の低下だと思えます。
- ・ 今の若者は自分達が若い時の様に和が無く自分勝手な事がある。
- ・ 診療所を無くさないで欲しい。バスで買い物に行けて気軽に交流出来る集いの場があればいいです。
- ・ このアンケートが着いて第3期の計画を見ました。様々な目標が記載されていますが、この期間中この目標1つ1つに対してどのような取組がなされ地域住民にどの様な事を求めて効果・結果がどの様に得られたのでしょうか。この計画に基づく支援の制度は本当に必要な方に情報として情報が行き届いているのでしょうか。相手の立場に立って考え取り組み思いやりの心を持って頂きたいです。
- ・ この町に住みたいと思える地域づくりが大事であると思う。
- ・ イベントを多くしてもらいたい。(プロジェクトマップ・コンサート・スポーツ等)

## 7 クロス集計

### ●年齢×自分が住んでいる地域の愛着

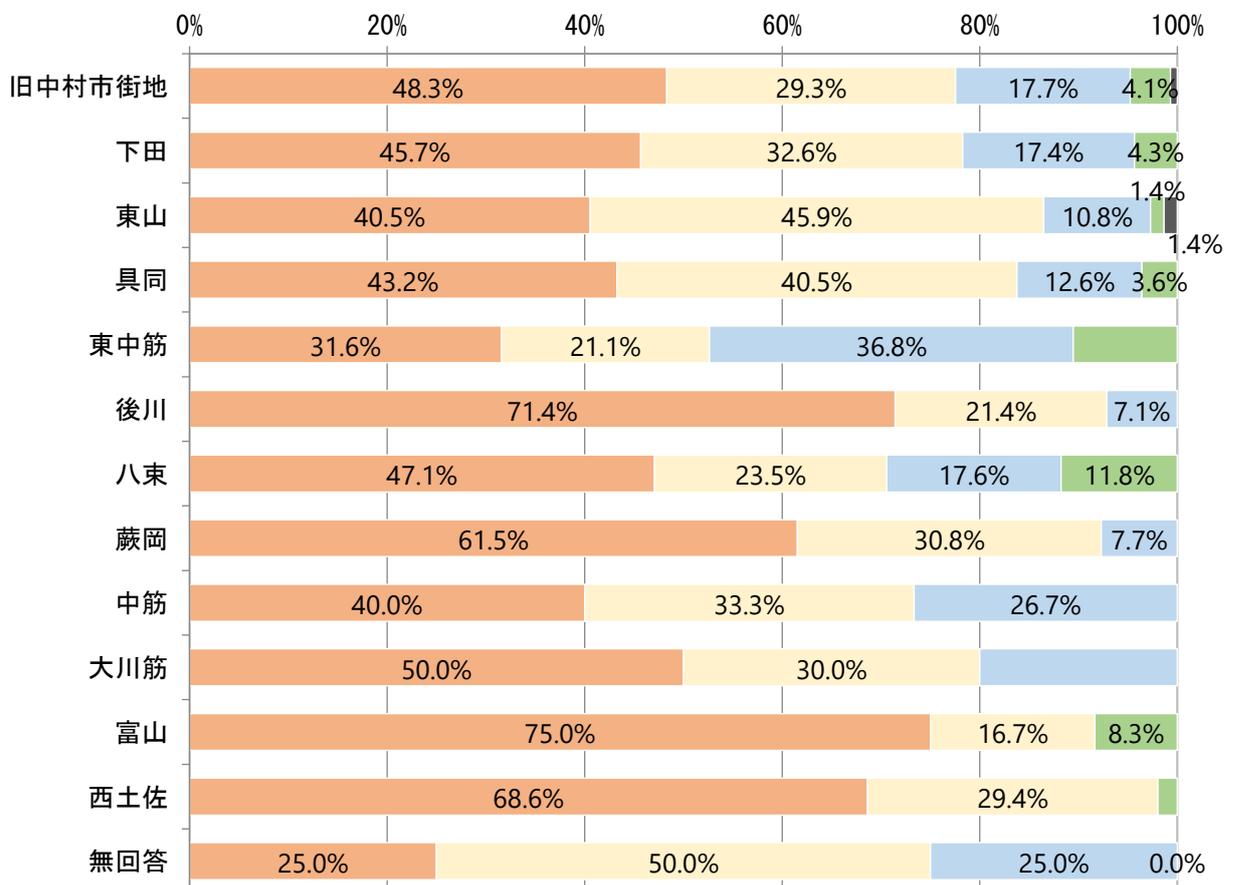
	愛着がある	多少愛着がある	あまり愛着はない	愛着は無い	無回答	計	%
10代	0	0	0	0	0	0	0.0%
20代	8	6	5	1	1	21	3.8%
30代	14	24	10	2	0	50	9.1%
40代	20	30	10	2	0	62	11.3%
50代	27	28	13	6	0	74	13.5%
60代	51	36	14	5	0	106	19.4%
70代	79	39	18	1	0	137	25.0%
80代	43	17	6	1	1	68	12.4%
90代以上	25	2	0	1	0	28	5.1%
無回答	1	0	0	0	0	1	0.2%
計	268	182	76	19	2	547	100%
%	49.2%	32.6%	14.2%	3.6%	0.4%		



●地域×自分が住んでいる地域の愛着

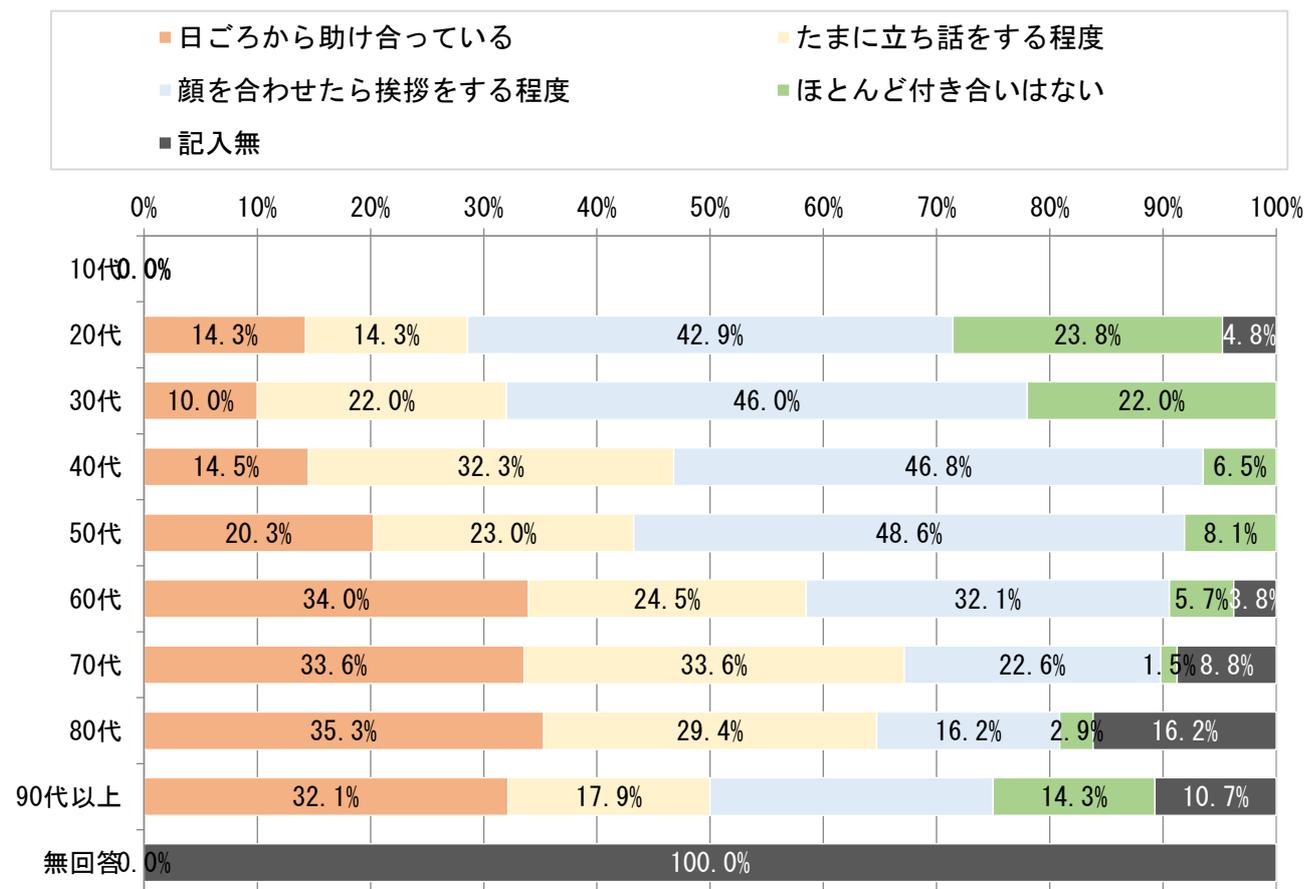
	愛着がある	多少愛着がある	あまり愛着はない	愛着は無い	無回答	計	%
旧中村市街地	71	43	26	6	1	147	26.9%
下田	21	15	8	2	0	46	8.4%
東山	30	34	8	1	1	74	13.5%
具同	48	45	14	4	0	111	20.3%
東中筋	6	4	7	2	0	19	3.5%
後川	20	6	2	0	0	28	5.1%
八束	8	4	3	2	0	17	3.1%
蕨岡	8	4	1	0	0	13	2.4%
中筋	6	5	4	0	0	15	2.7%
大川筋	5	3	2	0	0	10	1.8%
富山	9	2	0	1	0	12	2.2%
西土佐	35	15	0	1	0	51	9.3%
無回答	1	2	1	0	0	4	0.7%
計	268	182	76	19	2	547	100%
%	49.2%	32.6%	14.2%	3.6%	0.4%		

■ 愛着がある ■ 多少愛着がある ■ あまり愛着はない ■ 愛着は無い ■ 無回答



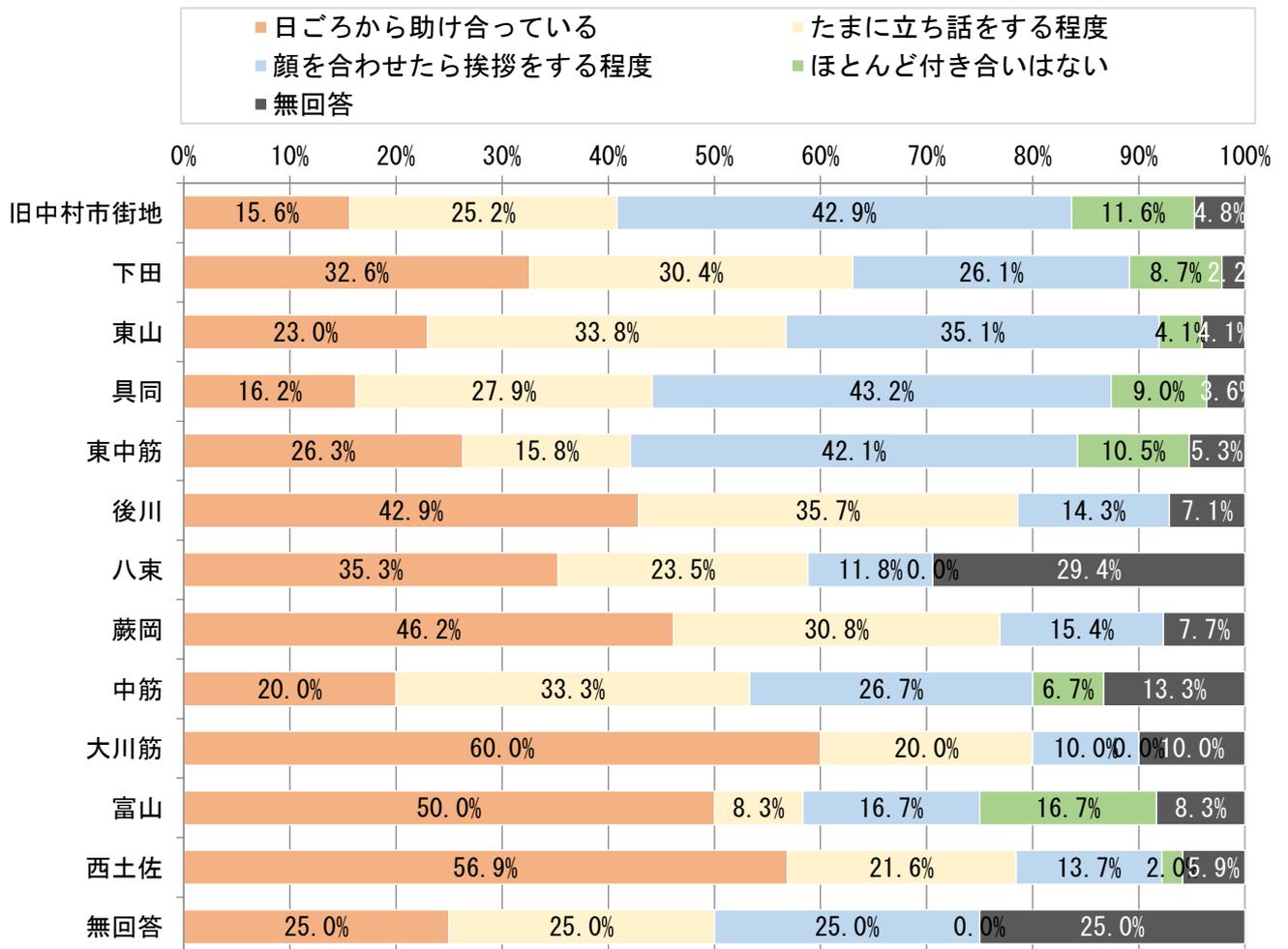
●年齢×近所づきあいの程度

	日ごろから助け合っている	たまに立ち話をする程度	顔を合わせたら挨拶をする程度	ほとんど付き合いはいはない	記入無	計	%
10代	0	0	0	0	0	0	0.0%
20代	3	3	9	5	1	21	3.8%
30代	5	11	23	11	0	50	9.1%
40代	9	20	29	4	0	62	11.3%
50代	15	17	36	6	0	74	13.5%
60代	36	26	34	6	4	106	19.4%
70代	46	46	31	2	12	137	25.0%
80代	24	20	11	2	11	68	12.4%
90代以上	9	5	7	4	3	28	5.1%
無回答	0	0	0	0	1	1	0.2%
計	147	148	180	40	32	547	100%
%	26.9%	27.1%	32.9%	7.3%	5.9%		



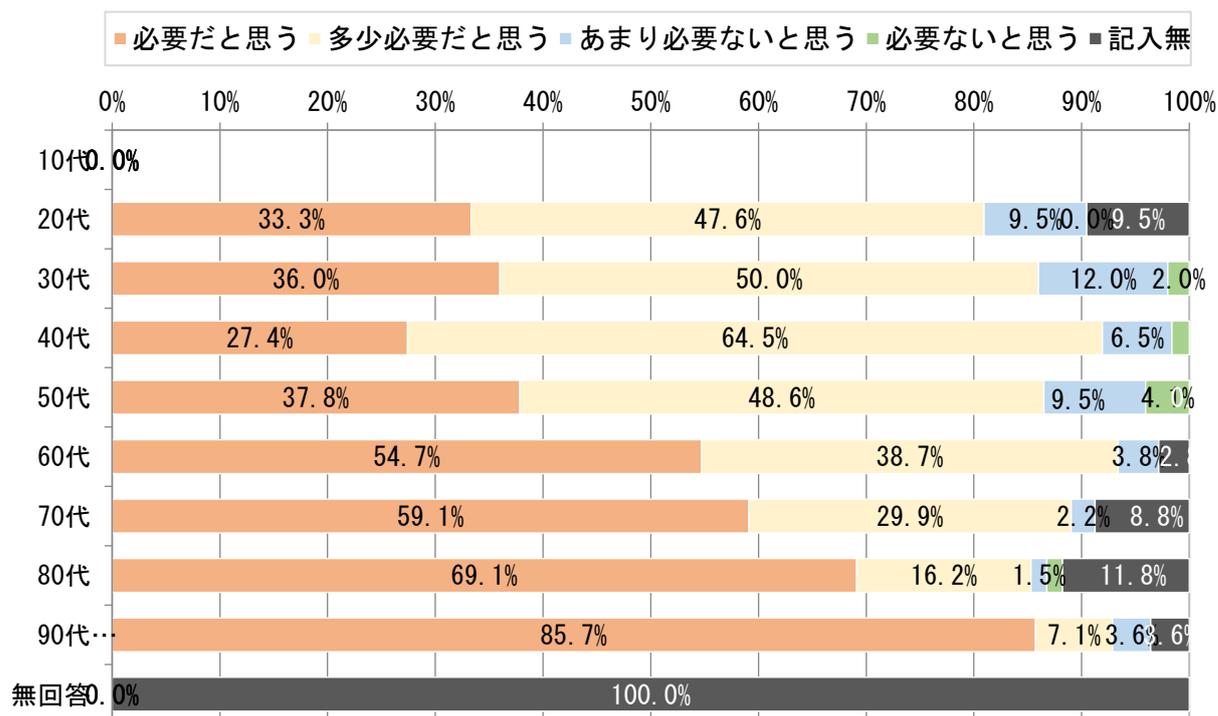
●地域×近所づきあいの程度

	日ごろから助け合っている	たまに立ち話を をする程度	顔を合わせたら 挨拶をする程度	ほとんど付き 合いはない	記入無	計	%
旧中村市街地	23	37	63	17	7	147	26.9%
下田	15	14	12	4	1	46	8.4%
東山	17	25	26	3	3	74	13.5%
具同	18	31	48	10	4	111	20.3%
東中筋	5	3	8	2	1	19	3.5%
後川	12	10	4	0	2	28	5.1%
八束	6	4	2	0	5	17	3.1%
蕨岡	6	4	2	0	1	13	2.4%
中筋	3	5	4	1	2	15	2.7%
大川筋	6	2	1	0	1	10	1.8%
富山	6	1	2	2	1	12	2.2%
西土佐	29	11	7	1	3	51	9.3%
無回答	1	1	1	0	1	4	0.7%
計	147	148	180	40	32	547	100%
%	26.9%	27.1%	32.9%	7.3%	5.9%		



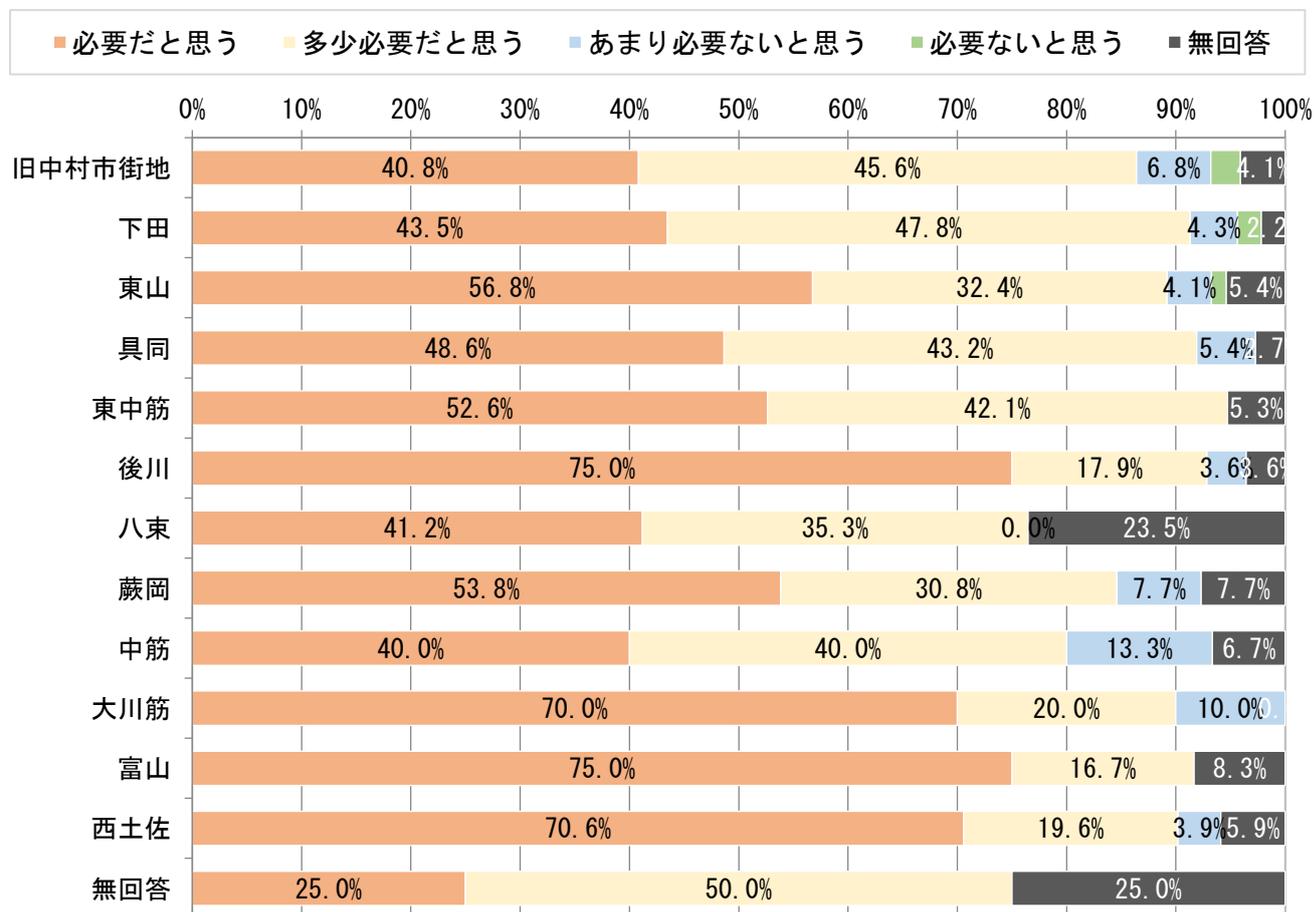
●年齢×近所づきあいの必要性

	必要だと思 う	多少必要だ と思う	あまり必要 ないと思う	必要ないと 思う	記入無	計	%
10代	0	0	0	0	0	0	0.0%
20代	7	10	2	0	2	21	3.8%
30代	18	25	6	1	0	50	9.1%
40代	17	40	4	1	0	62	11.3%
50代	28	36	7	3	0	74	13.5%
60代	58	41	4	0	3	106	19.4%
70代	81	41	3	0	12	137	25.0%
80代	47	11	1	1	8	68	12.4%
90代以上	24	2	1	0	1	28	5.1%
無回答	0	0	0	0	1	1	0.2%
計	280	206	28	6	27	547	100%
%	51.2%	37.7%	5.1%	1.1%	4.9%		



●地域×近所づきあいの必要性

	必要だと思 う	多少必要だ と思う	あまり必要 ないと思う	必要ないと 思う	記入無	計	%
旧中村市街地	60	67	10	4	6	147	26.9%
下田	20	22	2	1	1	46	8.4%
東山	42	24	3	1	4	74	13.5%
具同	54	48	6	0	3	111	20.3%
東中筋	10	8	0	0	1	19	3.5%
後川	21	5	1	0	1	28	5.1%
八束	7	6	0	0	4	17	3.1%
蕨岡	7	4	1	0	1	13	2.4%
中筋	6	6	2	0	1	15	2.7%
大川筋	7	2	1	0	0	10	1.8%
富山	9	2	0	0	1	12	2.2%
西土佐	36	10	2	0	3	51	9.3%
無回答	1	2	0	0	1	4	0.7%
計	280	206	28	6	27	547	100%
%	51.2%	37.7%	5.1%	1.1%	4.9%		



●年齢×地域の課題

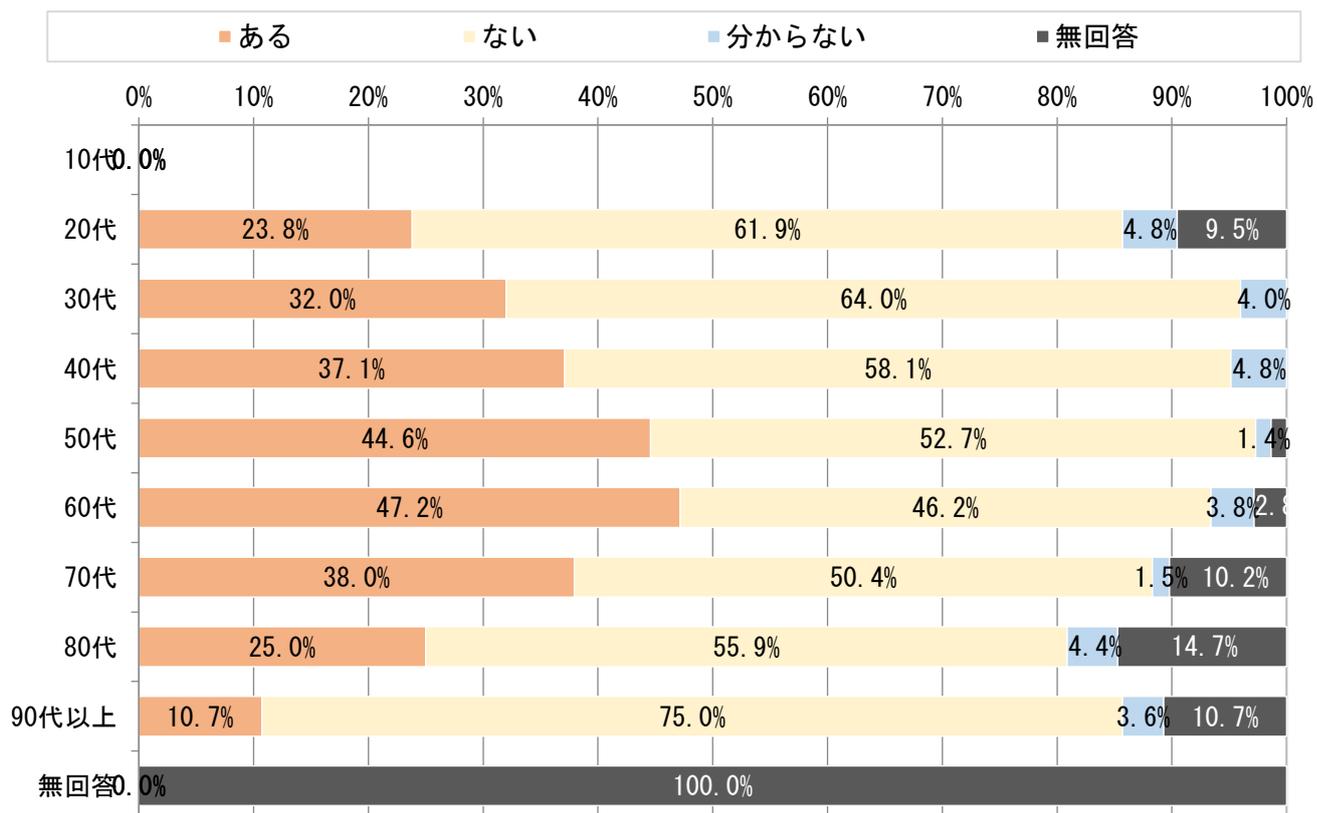
	あいさつをしない人が多い	災害時など緊急時の対応が分からない	落ちているゴミの増加	子どもを見守る体制が不十分	高齢者独居世帯への支援が不十分	隣近所との交流が少ない	地域の活動に参加する人がいない	地域の活動に参加する機会が少ない	地域の情報が無い	障害者に対する理解が不足している	買い物がしやすい環境づくり	その他	記入無	計	%
10代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
20代	1	8	2	2	2	2	5	1	3	4	0	2	1	33	3.4%
30代	3	17	4	9	5	4	11	5	5	12	2	9	1	87	9.0%
40代	3	21	7	7	6	6	13	13	9	14	4	14	1	118	12.2%
50代	6	23	6	5	14	3	11	10	8	14	2	10	6	118	12.2%
60代	9	28	11	4	20	8	25	26	11	14	5	23	4	188	19.4%
70代	8	34	4	3	23	6	38	32	14	18	8	36	13	237	24.5%
80代	6	17	4	2	11	4	20	18	12	12	6	13	13	138	14.2%
90代以上	2	9	0	1	10	1	6	4	2	4	1	3	3	46	4.7%
無回答	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	4	0.4%
計	38	158	38	33	91	34	129	110	65	92	28	111	42	969	100%
%	3.9%	16.3%	3.9%	3.4%	9.4%	3.5%	13.3%	11.4%	6.7%	9.5%	2.9%	11.5%	4.3%		

各年齢の上位3項目を表記

年齢	1	2	3
10代	回答者なし	回答者なし	回答者なし
20代	災害時など緊急時の対応が分からない	地域の活動に参加する人がいない	障がい者に関する理解が不足している
30代	災害時など緊急時の対応が分からない	障がい者に関する理解が不足している	地域の活動に参加する人がいない
40代	災害時など緊急時の対応が分からない	障がい者に関する理解が不足している	その他
50代	災害時など緊急時の対応が分からない	高齢者独居世帯への支援が不十分	障がい者に関する理解が不足している
60代	災害時など緊急時の対応が分からない	地域の活動に参加する機会が少ない	地域の活動に参加する人がいない
70代	地域の活動に参加する人がいない	災害時など緊急時の対応が分からない	その他
80代	地域の活動に参加する人がいない	地域の活動に参加する機会が少ない	災害時など緊急時の対応が分からない
90代以上	高齢者独居世帯への支援が不十分	災害時など緊急時の対応が分からない	地域の活動に参加する人がいない

●年齢×ボランティア活動の有無

	ある	ない	分からない	無回答	計	%
10代	0	0	0	0	0	0.0%
20代	5	13	1	2	21	3.8%
30代	16	32	2	0	50	9.1%
40代	23	36	3	0	62	11.3%
50代	33	39	1	1	74	13.5%
60代	50	49	4	3	106	19.4%
70代	52	69	2	14	137	25.0%
80代	17	38	3	10	68	12.4%
90代以上	3	21	1	3	28	5.1%
無回答	0	0	0	1	1	0.2%
計	199	297	17	34	547	100%
%	36.4%	54.3%	3.1%	6.2%		



## 8 結果と考察

### (調査対象者の属性)

「男性」が 39.5%、「女性」が 59.8%となっている。年齢構成では、「10 代」の回答が得られていないものの、幅広い年齢層の回答が得られている。主な職業では、「無職」が 33.5%と高く、次いで「会社員・公務員」が 25.2%と高くなっている。お住まいの地域では、「旧中村市街地」が 26.9%、「具同」が 20.3%、「東山」が 13.5%と高く、人口規模の多さを反映している。世帯構成では、「2 世代(親と子)」が 39.5%、次いで「夫婦」が 32.7%と高くなっている。

### (地域に対する意識調査)

自分が住んでいる地域の愛着では、「愛着がある」が 49.0%、「多少愛着がある」33.3%となっており、多くの方が愛着をもって生活していることがうかがえる。一方で、平成 30 年度に実施した同様の調査結果では「愛着がある」が 57.9%となっており、愛着の程度が減少している。また、近所付き合いの程度においても、「日頃から助け合っている」の割合が前回調査 32.7%に対して今回調査 26.9%と 5.8 ポイント減少、近所付き合いの必要性についても「必要だと思う」の割合が前回調査 58.1%に対して今回調査が 51.2%と 6.9 ポイント減少しており、地域の関係性の希薄化が進んでいる状況がうかがえる。クロス集計の結果から、地域の愛着・近所付き合いの必要性の割合は、年齢とともに高くなる傾向が見受けられる。

### (地域課題について)

自分がすんでいる地域の課題では、「災害時など緊急時の対応がわからない」が 29.3%と最も高く、次いで「隣近所との交流が少ない」が 23.6%となっている。クロス集計の結果から、20 代～60 代の年齢層で「災害時など緊急時の対応がわからない」が高い傾向があり、70 代～80 代の年齢層では「地域の活動に参加する人がいない」が高い傾向があった。90 代以上では「高齢者独居世帯への支援が不十分」が高い傾向があり、世代ごとに地域課題も異なっている。地域の暮らしをより豊にするための必要な取り組みでは、「支援が必要な人への支援」、「バスなどの公共交通手段の整備」、「買い物しやすい環境づくり」が多い傾向があった。

### (福祉サービスの情報について)

福祉サービスの情報入手の程度として、「十分入手できている」が 7.5%、「十分ではないが入手できている」が 28.7%となっており、その情報入手の方法としては、「市の広報誌」が圧倒的に多く、市民の情報ツールとなっている。

### (分野ごとの課題について)

高齢分野	在宅福祉サービスの充実	ホームヘルパーなど福祉人材の育成・確保
障がい分野	障害福祉サービスの充実	働く場の整備
子ども分野	安心して遊べる場所の充実	地域での声かけ・見守り
生活困窮分野	就労支援や就労場所の提供	相談支援体制の充実